

## JOFCA から JIFPRO へ

山 口 夏 朗

(財)国際緑化推進センター (JIFPRO) が設立されたのに伴い、「熱帯林業」の発行は (社)海外林業コンサルタンツ協会 (JOFCA) から JIFPRO へと引き継がれることとなり、1991年9月の22号から JIFPRO での発行となりました。

JIFPRO は、「今後の国際林業協力の推進には、国だけでなく民間による協力の推進が肝要。そのために、それを促進する民間機関の設置が必要」との考えから、大来佐武郎元外務大臣を中心とする有志により林野庁の肝いりで、1991年4月に設立されました。

そして、「国際林業協力を推進する人材の養成確保、民間協力活動の促進、普及啓発活動を通じ国際緑化の推進に寄与し、もって地球規模での森林の保全造成に資すること」を目的として、必要な事業を展開することとなりました。

事業の一環として、国際林業協力及び海外の森林・林業に関する技術・情報の収集及び提供、並びに国際緑化に関する普及啓発の事業が盛り込まれておりました。また、林野庁でも JIFPRO の事業展開に当たり国際緑化推進センター事業という補助事業を用意しており、その中に技術情報誌と国際緑化に関する情報誌の2種類の定期刊行物の発刊が計上されておりました。

4月に創設されたばかりの JIFPRO にとって、年内に新しく2種類もの定期刊行物を発刊させることは大変なことでありましたが、幸いなことに、技術情報誌については既に「熱帯林業」があり、発行者であった JOFCA が発行権を譲って下さることとなり解決出来、9月の22号から JIFPRO の発行となりました。ちなみに、国際緑化に関する情報誌については「緑の地球」という冊子を創刊し、11月に第1号を発行しました。

発行者の変更の際して、名称は変更しないこと、編集委員は当面現行のまま、と言うことで出発しました。

「熱帯林業」と言う名称については、熱帯では地球環境問題へ取り組むには地域が限定的すぎるので変更してはと考えましたが、編集関係者からの強い要望があり従来通りと致しました。

---

Natsuo Yamaguchi: From JOFCA to JIFPRO in Publication of "The Tropical Forestry"

(財)国際緑化推進センター前専務理事

また、編集委員は従前の方々にそのままお願いすることにし、JIFPROの重要な活動テーマが民間活動の促進、特にNGOの育成・強化にあることから国際緑化活動に従事するNGO関係者の原稿を極力加えていくことの外は従来の編集方針を継承することにしました。

発行につきましては、原稿依頼から印刷、発送まで全てJIFPROが取り仕切ることになりました。装丁等についても従来ものを踏襲することとしましたが、活字については読みやすくすることで1ポイント大きくし、その分増ページとなりました。

「熱帯林業」の発行に併せて、それまで林野庁内におかれていた海外林業研究会の事務局の事務もJIFPROが引き継ぐこととなりました。これは発行業務よりはるかに大変な仕事でありました。それは会員名簿の確認整理と会費の徴収、そして会報である「熱帯林業」の発送でした。当時、会員数は700名近くで、林野庁の職員がその大多数を占めておりました。ところが林野庁職員は異動が激しく、特に会員の場合、国外、国内と忙しく移動するため、引き継いだ名簿は整理が追いついておらず、会報の送付や会費の徴収などの事務に混乱が生じました。結局、会員名簿の再整理を行うととなり、未納会費の解消に合わせて多大の経費と労力、時間を要しました。その結果会員数は450名ほどに激減しました。そこで研究会会員でなく、本誌だけ購読する会員も認めることとしました（現在約120名）。

発行を引き継いでから早18年、その間に22号から70号まで49号も発行して来たとは時の経過の早さに驚くだけです。

この18年間を振り返って見ますと、掲載記事に地球環境問題関連のものが増えて来ていたり、NGO関係者の記事が見られたりと時代の流れに沿って変化して来ております。取り上げる森林も熱帯林ばかりでなく世界の森林が対象とされて来ており、一時、編集委員会に置いて名称変更について論議がなされるほど「熱帯林業」も時勢に対応して歩んで参りました。

そして今回、目出度く新シリーズ70号を迎えることが出来、真に慶賀の至りと心よりお祝い申し上げる次第です。

今後について考えてみますと、厳しい国の財政状況の中、補助事業は年々縮小傾向にあり、補助制度の改変（公募方式の導入）、公益法人の見直し、などJIFPROを巡る環境は厳しさを増しております。また、「熱帯林業」の発行存続に中核的役割を果たしてきた海外林業研究会も会員の減少（現在約310名）に見舞われており、「熱帯林業」を取り巻く環境は大変厳しいものがあると思われまます。

しかし、これまでも厳しい状況を切り抜けてきた「熱帯林業」誌、時勢が要求する限りは何とか苦難を乗り越えて続けられることを期待して止みません。